

とりとめのない話：最近の出来事の感想

T.I.

「とりとめのない話です」とお断りをした上で、最近の出来事の感想（駄文）を書いています。

1. 「新宿七福神めぐり」と「神楽坂の横丁」の街歩き、そして北原白秋

この新春 1 月 8 日に「新宿七福神めぐりと街歩き」が私たちハイキングクラブで企画されており参加してきました。七福神の歴史を調べてみると、現在の顔ぶれにほぼ定まったのが江戸時代で、その後もずっと今日まで信仰が続いているところを見ると、きっと「七難即滅、七福即生」のご利益は本物なのでしょう。大いに期待したいと思います。

さて、七福神の中で日本出身の神様は恵比寿天だけです。他は、インドや中国からやってきた神々です。恵比寿天は、日本書記の日本創世の神様いざなぎ・いざなみの子である蛭子（ひるこ）が神となったという説です。満三歳になっても歩かなかったため、船に寄せられ捨てられてしまい、やがて漂着した浜の人々の手によって手厚く祀（まつ）られたのが、信仰のはじまりと伝えられています。左手に鯛をかかえ右手に釣竿を持った親しみ深いお姿の、漁業の神で、特に商売繁昌の神様としても信仰が厚いのだそうです。

また、七福神の中で女性は弁才天（弁財天）だけです。琵琶を弾く美しく妖艶な姿で現され、福德・諸芸能上達の神として広く信仰されています。インドの川の女神です。現在の七福神の紅一点は弁才天ですが、以前は『吉祥天（きっしょうてん/きちじょうてん）』（図 2 参照）という女神だったというから驚きです。何があったのでしょうか。

吉祥天は、七福神の一人、毘沙門天（多聞天；図 1 において弁才天の左隣）の妻ともされ、たおやかな天女として表されています。仏教において天界に住む者の総称を天部と呼びますが、その天部一の美女とされ、あらゆる福德を招く美の女神です。そのため、貴族から崇拝され、



図 1 七福神



図 2 浄瑠璃寺 吉祥天 立像

かつては七福神の一角であり、現在弁才天がいる席に座っていたのだそうです。時代が下がるにつれ、弁才天が水神の側面を持つことから、水田による稲作を重視する日本人には弁才天の方がより馴染みやすかったのです。つまり、平安時代以後に神仏習合が盛んになって、庶民に身近な神様と同一のものとされた仏の信仰が広まっていくのですが、その過程で弁才天が日本の神様と習合できたのに対し、吉祥天は習合できなかったのです。吉祥天と弁才天とはどちらも美しく類似点が多いのですが、本質的に勝気で気丈な弁財天に対し、吉祥天は清楚で朗らかな女性と思われます。七福神において、毘沙門天の妻でもあった吉祥天に代わって弁才天が就いたため、弁才天は大変美しいが嫉妬深く、お参りに来た恋人同士の仲を裂くという俗信があります。そのためカップルではお参りに行かないそうです。弁才天は、神仏習合や明治の神仏分離があって、今日では神社や寺で祀られています。

今回の七福神めぐりでは、私たちのようなシニアグループに多く会いました。この日最後にお参りした縁結びのご利益がある東京大神宮での若い女性の多さと対照的です。大いに理解できるところです。

この「新宿七福神めぐり」には、企画者（T.O.さん）の粋な計らいでその実ウォーキング前後に「新宿歌舞伎町」と「神楽坂の横丁」の街歩きがセットされていたのです。これらの街は、田舎者の私にとっていすれも未踏の地です。それぞれが夜になれば若い男女や年配の花街を愛する紳士淑女が集まる街と聞いており、一度は行って見ておかなければと思っておりました。その点で今回はダブル楽しみの企画でした。以下は、「神楽坂の横丁」の街中のワンスポットの話です。

この「神楽坂の横丁」（図3参照）の街歩きで、見番横丁（芸者衆の手配や、稽古を行う「見番」が沿道にあることから名付けられました）から左（東）に入ると細い小路があります。芸者小道と称される石畳の坂が、東京理科大学裏手の小栗通りにつながっています。その坂の一段低い場所に降りて行った先に「泉鏡花旧居跡 北原白秋旧居跡」表示柱がありました（図4参照）。東京理科大学キャンパスの一角のようですが、通りからは高い校舎ビルもあってキャンパスの様子はうかがえず、ただ空き地に新宿区の立てた黒い表示柱と説明板だけがあるだけでした。



図4 泉鏡花旧居跡 北原白秋旧居跡
(from <http://f.hatena.ne.jp/ovanrei/20180116184000>)

図3 神楽坂の地図：↓は泉鏡花旧居跡 北原白秋旧居跡

説明によると、明治 32 年、泉鏡花は神楽坂で芸妓桃太郎と親しくなり、友人から借金をして明治 36 年 3 月、ここの借家に彼女と同棲を始める。しかし、師である尾崎紅葉から叱責を受け、それを解消することとなった。ただ、同年 10 月紅葉が亡くなるとその芸妓を正式に妻として迎え、明治 39 年 7 月までここに住んだという。一方、白秋（23 才）は鏡花より遅れて明治 41 年 10 月から翌年 10 月に本郷動坂に転居するまでの約 1 年間でここで過ごしたのだとか。

思いかけず「北原白秋」に出会い、確か「からたちの花が咲いたよ 白い白い花が咲いたよ・・・」の唱歌「からたちの花」を作った人だと記憶をたどり、小学校時代のノルスタジーに一瞬浸ったのでした。北原白秋といえば、日本の詩人、童謡作家、歌人であり、1885（明治 18）年に生まれ、生涯に数多くの詩歌を残し、今なお歌い継がれる童謡を数多く発表するなどして、1942（昭和 17）年に死去されています。作詞された童謡には、『からたちの花』の他に、『ゆりかごのうた』、『あめふり』、『この道』、『ペチカ』、『待ちぼうけ』、『城ヶ島の雨』など良く知られた曲がたくさんあります。

白秋（図 5 参照）は、その生涯において 3 人の妻を持ちました。白秋自身が「豊満な、非常に目の動く仏蘭西型の貌だちで、背のすらりとして下腹部できゅつと締って腰の出っ張った、どう見ても日本の女では無かった」と描写する美貌の人妻俊子との恋は一大スキャンダルになり、二人は姦通罪で告訴され未決監に拘置されました（白秋 27 才）。釈放後に和解が成立し正式に結婚しますが、結婚生活は 1 年余りしか続かず貧窮の中で離別します。その 2 年後、詩人でもある章子と結婚し 5 年の歳月を共有しましたが、彼女が若い記者と共に姿を消すという悪夢のような事件が起こり二人の仲は破綻します。やがて、3 番目の妻菊子と結婚し幸福な家庭を築きます。白秋の名が広く知られるようになったのは、童謡によるところが大きく、これは、ひとえに 3 番目の妻菊子夫人あつてのこととされています。これらに関して丁寧な取材に基づいた小説『ここ過ぎて白秋と三人の妻』瀬戸内晴美著があります。



図 5 北原白秋（左）と山田耕筰（右）

「からたちの花」は、北原白秋作詞、山田耕筰作曲で文部省唱歌になっています。「からたちの花が咲いたよ 白い白い花が咲いたよ からたちのとげはいたいよ 青い青い針のとげだよ からたちは畑の垣根よ いつもいつもとほる道だよ からたちも秋はみのるよ まろいまろい金のたまだよ」と無垢で優しい情が歌われていますが、白秋の波乱な人生の何処にこの作詞の原点があるのでしょうか。気になり調べてみました。山田耕筰（図 5 参照）は 10 才の時に実父を亡くし、その後は

実父の遺言もあって寄宿舎にすみ、活版工場で勤務しながら夜学で学んでいました。耕筈は自伝において、『「工場でつらい目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いた」と述懐し、この思い出を北原白秋が詩にしたためた』とのことでした。

山田耕筈（1886 年（明治 19 年） - 1965 年（昭和 40 年））は、日本最初の管弦楽団東京フィルハーモニー管弦楽団を組織したのをはじめ、創作と実践の両分野で黎明期の日本の楽壇に貢献した作曲家です。また彼には、数々の女性遍歴があり、それが災いしてオーケストラへの出資を断たれるなど数々の自由奔放なエピソードがあります。北原白秋作詞、山田耕筈作曲による黄金コンビ作品は、童謡、校歌、社歌、市歌、新民謡など 360 曲余りあるそうです。駒澤大学、大正大学、関西学院大学などの校歌、NEC、旧国鉄、八幡製鉄所などの社歌は、この黄金コンビの作品だそうです。彼らが互いの相手を語った小文を載せているインターネット記事「白秋と耕筈(Ref.1)」がありました。2 人はかなり性格が異なりますが、協働して意欲的に創作された下には互いの強い友情と信頼があったことがうかがえます。

Ref1. https://www.tohomusic.ac.jp/librarySite/tenji/hakushuu_kousaku.html

2. 樹木希林（きき きりん）さん

もう今年の 9 月の出来事になってしまいましたが、俳優の樹木希林（75 歳）（図 6 参照）さんが亡くなりました。その追悼記事（11 月 29 日朝日新聞朝刊）として、本名の「内田啓子」で私信を交わしていた何必館（かひつかん）・京都現代美術館長の梶川芳友さんとの下記のやりとりが紹介されていました。

「うらを見せおもてを見せてちるもみじ」

江戸時代後期の曹洞宗の僧侶、良寛（72 歳）の辞世の句です。お二人はしばしばこの句について語り合ったという。希林さんはこう語ったそうです。

「裏から始まるところがすごい。年や経験を重ねても、人間は表裏を持ち続けているという本質を見抜いていた人の句ね。こうありがたい」

お二人は別の良寛の下記の句も好んだという。

「散る桜 残る桜も 散る桜」



図 6 樹木希林
(from ウィキペディア)

注（執筆者）：この句は良寛の辞世の句として注目をあびているのですが、良寛の最期を看取った人は、誰もこの句を記していないし、伝承もない。「散る桜残る桜も散る桜」という既にあった古句が良寛の逸話に紛れこんだのではと見られています。他に辞世の言葉として「死にたうなし」があります。（既投稿：2017-06-22：長寿の心得, Ref.1）

また、この句は、特攻隊員の奥山道郎大尉（26 歳）が弟に残したという遺書

「散る桜残る桜も散る桜 兄（けい）に後続を望む」

に引用されたことでも有名になっています。

この句を「人は必ず死ぬものである」と捉えることには大いに納得感があります。しかしながら、この句をタイトルとする鶴田浩二が歌う軍歌では、「散る桜 残る桜も 散る桜」の出だし後に、「いつか散り行く この身じゃないか 男ごころに咲く花は 今をさかりに 咲けよ咲け」と続くのです。こうなるともはや、「戦争に国家挙げて立ち向かうためにその戦士の士気を鼓舞するもの」に他なりません。戦後 70 年を経て戦後生まれが人口の 8 割を超えた今日、かつての戦争突入時を彷彿させるような「国家のためには個人を犠牲にしてもよい、国民に嘘をついてもよい、日本のためには地方の犠牲は仕方がない」との国家主義の政治家が幅を利かせているようでとても心配です。

樹木希林さんの追悼記事の中に、釈迦の弟子の一人、提婆達多（だいばだつた）の話もでてきます。提婆は釈迦にたてつき、困らせる、みんなが彼を遠ざけた。だが釈迦は「役だつ人だけがいいのではない。困らせる人は己を磨くうえで必要だ」と説いたといひます。

私にとっては、この言葉を若き現役時代に知らなかったのはとても残念です。当時は、会社生活の中で毎日が成果を上げることが最優先で視野が狭く、精神的なゆとりを持てませんでした。しかも、いま振り返れば、その成果も野球に例えるとヒットや盗塁を狙ったようなものでホームランではありませんでした。世間の含蓄が多少理解できるようになった今日、その当時にこの言葉を知っていればもう少しうまく仕事できたのではと反省をしています。

3. 孫の成長と私の老化：世代交代

時々、都内に住む娘孫の世話係（遊び相手）が私に回ってきます。3 歳（保育園児）の孫娘と 9 歳（小学 3 年生）の男孫です。孫娘を保育園から連れて帰る役割を担うのですが、その孫が帰り途中の緩い小坂の上り口まで来ると手を急に解いて駆け上がり、振り返っては「ここまでおいで」とのたまうのです。走りは今では転倒に繋がりそうなので、私は走りません。

9 歳の男孫は、最近、将棋で遊び始め、時々その対戦相手に乞われています。私のヘボは十分承知の上なのですが、先日、本当にうっかりで飛車を取られてしまい、初めて負けてしまいました。注意力と認知力において、両者の立ち位置が成長と老化により逆転してしまった瞬間です。



図7 将棋

しかし、私には未だ勝てるものがあります。私の家に 5kg のダンベルがあります。家に遊びに来た孫はそれを持ち上げるのですが、両手で腹あたりまでがやっとです。一方、私は片手に 5kg ずつ持って頭上に上げることが

できます。どうだと言わんばかりに平気な顔を装い、孫の鼻先をかすめるようにして上げます。この優越感をしばらくは渡したくはありません。いずれ逆転されることは判っています。

世代交代が進み、老いても世に生かされる意味はなんでしょう。極端ですが、伝説「姥（うば）捨て山」やそれを題材とした深沢七郎の小説「檜山節考（ならやまぶしこう）」が思い浮かびます。長野県千曲市の長野自動車道上に姨捨（おばすて：「うば」ではなく「おば」）サービスエリア（SA）があります。千曲市姨捨は、日本の棚田百選の一つである「姨捨の棚田」や「田毎（たごと）の月」があります。「檜山節考」は、ここ信州の伝説をもとにしたとの説があります。同じような伝説は、

950 年ごろの「大和物語」にも出てきます。そこでの「姨捨（をばすて）」の「姨（をば）」は、（幼い時に親と死別した主人公の男を親のように世話した）伯母のことです。脱線しますが、「うば/おば捨て」という言葉があるのに「おじ捨て」がないのが気になります。

他に「棄老」という言葉もあります。しかし、これらの物語で大事なポイントは、何れも老人を邪魔として捨てるが後で後悔してまた連れ戻すという筋書きになっていることです。つまり、そこには棄老という悲劇だけではなく、長い人生を生きてきたお年寄りの深い知恵を大切にするという思いも込められているのです。裏を返せば、長い人生を生きてきても深い知恵のないお年寄りには捨てられても仕方が無いと!! 私は、「もう手遅れか」とこれまで張っていた威勢が急に萎えてしまいそうです。

いや、そんなことはありません。子供の時には反対されたが大人になって訳が理解できた、若い時にもう少しこうしとけば良かった、子供の時にこう接してくれていればもう少し頑張れたなどと思うこと、これらはいずれも年老いるまで生きてきたからこそ得られた人生ノウハウなのです。これらを次世代に伝えなければ活かす所がありません。また、1969 年アポロ 11 号の月着陸、1972/5/15 沖縄返還、1989/1/7 昭和天皇の崩御、1995/2/11 阪神淡路大震災、1995/3/20 地下鉄サリン事件、2001/9/11 同時多発テロ事件、2011/3/11 東日本大震災と福島原発事故、北朝鮮による拉致問題、安倍政権における森友・加計問題などの事件に対する当時の生身の驚き、怒り、不安、喜びも次世代に伝えていくべきです。アポロ 11 号の月着陸（図 8 参照）や 9/11 同時多発テロ事件には今なお陰謀論があり、そういう国がアメリカだということも付け加えて。我が子の誕生や両親との離別時の様子、各家庭史における重要出来事の伝え送りもとても大事だと思うのです。

若者は、若かった時の私たちのように余り聞く耳を持たないかもしれません。それでも良いのです。彼らが大人になった時、そういえばおじちゃんおばちゃんがいつも言っていたなーと思い出してくれるだけで、十分に役割を果たしています。若者は、世代間の繋がりが生きていく意義に気付くはずです。これは人生において、人間にとって大事だと思います。この辺りの役割に AI ロボットを期待するのは難しそうに思えます。



図8 アポロによる月着陸

定年後の夫を揶揄する言葉に、「濡れ落ち葉」、「粗大ごみ」、「産業廃棄物」などがありますが、妻に対しては思いつきません。老妻が老夫からの束縛を切って自由を謳歌するための「熟年離婚」があるくらいです。しかしこれは、老人男女の平均余命を比べれば、当然かもしれません。例えば、70 才の平均余命は、男 15.6 年に対し女 19.9 年と女が 4 年余りも長いのです。より長生きする、より元気な老妻が老夫とは別の残り人生の計画を考えてもおかしくはないのです。しかし、計画の実行は、夫の没後にとぜひお願い致します。